

エジプトの空手稽古

あいしま はつき
相島 葉月
民博 先端人類科学研究部



空手の先生をしてみました

黄帯の贈呈式にて

エジプトで空手家コミュニティの調査中に空手教室のアシスタントの依頼が舞い込んだ。指導者として振る舞うことで思いがけない発見に出会った。

「仕事場」の外へ

エジプトの知識人についての博士論文を書いていたころの「仕事場」は喫茶店だった。インフォーマントと待ち合わせをして、お茶を飲んだり、水たばこを吸ったりしながらいろいろな話を話した。エジプト滞在が二年過ぎたころから座ってばかりの調査に嫌気がさし、少しは身体を動かすことのできるテーマはないものかと考えた結果、空手家コミュニティについて研究することを思いついた。エジプトは中東・アフリカ地域を代表する空手大国で、カラテは子どもの習い事として人気を博している。

スポーツや芸術に関する調査をおこなう者は経験者が多い。日本の高校のバスケットボール部について研究していたアメリカ人の友人は、大学までバスケットボールをしていた。ヨーロッパで活躍する日本人音楽家について論文を書いた友人は、素晴らしいヴァイオリンの腕前をもつ。一方、わたしは空手に関する研究課題の構想を練り始めたものの、武道経験がまったくなく、帯の締め方すら知らなかった。少しは空手について知らないこと調査に支障が出ると思いい教室に通い始めたが、昇級試験を受ける機会がないまま五年ほど経った。エジプトでは二年間で茶帯を取る子どもがいることに鑑みると、信じ難い遅さである。

武道初心者が「キャプテン」に

二〇一五年秋、カイロでの調査中によりやく白帯から黄帯に昇級したころ、子ども向けの空手教室を運営する方からアシスタントの仕事依頼された。先生は早朝から私立校の体育教師を務めた後、昼食をとり三時ころに帰宅し、夕方からは空手を教えに出かける。週末も道場をほしする先生の教室に出稽古に訪れた際に「君の技は初級者とは思えないほど力強い。わたしの補助教員をしてみないか？ 五〇〇ポンドの月給でどう？」とスカウトされた。これは日本円で三四〇〇円程度だが、大卒の初任給と同等の額である。エジプトでお金を支払うことはあっても、もらうことはないので仰天した。

指導者ゆえの孤独を知る

わたしはマンチエスター大学の教員であったことから、日常的に大学で講義をおこなっていたとはいえ、幼稚園児や小学生に接する機会は皆無であった。しかもアラビア語で何かを教えるのは初めてであった。自分が稽古を受けているときには「キャプテン」についていけばいいのだが、稽古をおこなう立場となるとまったく違った世界が見えてきた。ことばで説明するよりも手本を見せる必要があるため、普段よりも上達している気がした。また、幼児はとにかくわたしの関心を引きたがるのに驚いた。六〇人もいると指示を理解するスピードもレベルもまちまちだが、一人の生徒の技を直したら、他の子も「キャプテン、わたしも！」という視線を送ってくる。



エジプト伝統空手道協会主催の全国大会小学生の部で優勝した二人と先生



上：わたしが生徒として通っていた教室でおこなわれた昇級試験の祝賀会のケーキ
下：昇級試験の祝賀会で空手道の演舞をする子どもたち



★
エジプト、カイロ

稽古後にケンタッキーのチキンフィレサンドを食べながら、「君の声は通りが良い。とても堂々としていて、なかなか良い稽古だった」と言われた。エジプトでは褒めて伸ばすことを重視している先生が多い。空手の上達の前に、稽古に通うことが好きになる必要があると考える。それから数週間、わたしは先生の助手となり、生徒のことを話し合いながら過ごした。一人で大勢の子どもを指導する空手教室の先生は、意外と孤独な業務であることを知った。ラマダーン中も稽古を休めず、日没とともに一人でケンタッキーに行き、断食明けの食事をとるといふ。初任給をもらう前に調査が終わり、わたしはエジプトを去った。ケンタッキーを見かける度に、先生を思い出す。今日は家族と食事をしていればいいのだが。